

去る9月の県議会で、通算4回目になる本会議一般質問を致しました。

1期目任期を余すところ半年。小田原市選出議員として、平素より強い思い入れのある地域の諸課題について、県知事始め当局に質問しました。質疑要旨をご報告します。

県政、まっすぐ未来へ!

よしなか

神奈川県議会議員 おざわ良央

報伝達方法、又、中洲堆積土砂や樹木撤去の基準まで再点検し、より安全な河川管理を望む。



1 県西地域二市八町の連繫について

おざわ 県内で人口減少と少子高齢化が特に進む県西地域では、行政サービスの安定的供給のための連繫、協力が不可欠。県の対応は。

知事 事務の共同処理化、保健師など専門職の育成、確保や公共施設の合築等、市町と検討始めた。更なる連携の取組みを後押しする。

おざわ 二市八町各々課題もあるが可能性も大きい。県の役割は、歳出の効率化、サービスの確保、利害の調整、小規模自治体の不安解消まで、多面的、大所高所から連携のあり方を指導すること。未来を見据えての支援を。

2 未病ハレー「ビोटピア」を核とした県西地域の活性化について

おざわ 大井町にある「ビोटピア」の賑わいの継続と、県西全体を活性化させる取組みは。

知事 多面的な事業展開と、将来は温浴、宿泊施設等整備したい。県西地域の食や温泉が楽しめる観光周遊ツアー等企画、活性化に弾みをつけたい。

3 小田原の観光資源を活用した外国人観光客の誘致について

おざわ 小田原から三島までの「箱根八里」が日本遺産に選定。観光資源豊富な小田原周辺の外国人観光客の周遊を増やす取組みは。

知事 40本以上の小田原を巡るモデルルートを作成。中国広告社や小田急等と連繫、PR動画を作成し、小田原の魅力を配信する等、外国人周遊客増加に取組む。

4 ダムからの放流情報に関する関係市町との連繫について

おざわ 本年7月の西日本豪雨の愛媛県肱川ダム放流事故等を参考に、県管理の城山・三保ダムの放流情報を下流域に如何に的確に伝達するか、取組みを問う。

知事 県は相模川で、流域市や气象台、警察等と、放流開始から避難勧告、住民避難まで想定して水害図上訓練。酒匂川でも早期に実施し更なる連携強化に取組む。

おざわ 事前放流の考え方、下流域への情

5 国道135号の高波対策について

おざわ 今夏の台風12号の真鶴道路の高波被害を教訓として、今後どう対応するか。

県土整備局長 米神・江の浦で施工中の既存道路高の3M嵩上げ越波工事を急ぐ。監視カメラの設置、高所避難経路の確保等、安心安全の確保に万全を期す。

おざわ 本根的な解決には、私が前から主張する小田原～伊豆・静岡を結ぶ高規格道路計画を推進すべき。スピードを早めて欲しい。

6 障がい児が地域で育つ環境の整備について

おざわ 「児童発達支援センター」を中心とした障がい児が地域で育つ環境の整備に向けて、県の取組みを問う。

福祉子どもみらい局長 「センター」は地域の“児童発達支援事業所”支援の中核施設だが、既設は県内15市町のみ。専門的な助言・指導の必要性の高まりから、全市町村への設置を急ぐ。

おざわ サービス充足や質の向上も目指し、強力な人材育成策にも取り組んで欲しい。

7 全国学力・学習状況調査結果の活用を

おざわ 今年度の本県小、中学校の平均正答率はほぼ全国平均だが、横浜・川崎の政令市に比べ、他市町村が低い。格差の無いよう結果を分析、検証し、充実、改善を。結果の活用と学力の向上にどう取り組むか。

教育監 本県の課題は、基礎的学力の定着度が低いこと。子ども達にわかりやすい授業づくりを進めて、徐々に改善が見られてきた。地域や学校ごとの課題を個別に把握し、市町村教育委員会と協議、各学校等の取組みを後押しし、児童・生徒の学力向上に繋げて行く。